

伏見城跡・指月城跡 発掘調査地元向け現地説明会資料

京都市文化財保護課
平成 29 年 10 月 21 日（土）

所在地：京都市伏見区桃山町泰長老
調査機関：京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課
調査期間：平成 29 年 9 月 19 日～10 月下旬（予定）
調査面積：約 130 m²
調査要因：遺跡の範囲確認に伴う発掘調査（文化庁国庫補助事業）

1 伏見城の歴史

伏見城は、豊臣秀吉によって築かれた城です。現在の研究では、築城から廃城までの約 30 年に 4 つの画期（Ⅰ期：豊臣期指月屋敷、Ⅱ期：豊臣期指月城、Ⅲ期：豊臣期木幡山城、Ⅳ期：徳川期木幡山城）が想定されています。

文禄元年（1592）、現在の観月橋団地一帯の「指月丘」に、秀吉が隠居所として屋敷を築きはじめ（Ⅰ期）、翌年の文禄二年（1593）の秀頼誕生を機に、屋敷を本格的な城郭として改築します（Ⅱ期）。しかし、文禄五年（1596）に起こった大地震で、城や大名屋敷が倒壊するなど大きな被害を受けました。翌年、秀吉は指月城の北東に位置する木幡山（現在の明治天皇陵付近）に城を新たに築きます（Ⅲ期）。この際、城下西側を中心に武家屋敷や城下町の整備も行いました。秀吉は晩年をこの城で過ごし、慶長三年（1598）に生涯を閉じます。

秀吉死去後、慶長四年（1599）に徳川家康が入城しますが、慶長五年（1600）の関ヶ原の合戦の前哨戦で、豊臣方から攻められ主要な建物は焼失しています。同年の関ヶ原の戦いで勝利をおさめた徳川家康により、翌年（1601）には伏見城の再建が始められ（Ⅳ期）、慶長八年（1603）には征夷大将軍宣下をこの城で受けます。元和元年（1615）の大坂夏の陣で豊臣氏が滅亡し、伏見城は城郭としての役割を終え、元和九年（1623）に廃城となります。廃城の際には、石垣一石まで破却せよとの厳命が下ったため、構築物は残っていませんが、現在でも地形や一部残存する石垣などから当時の伏見城の様子を窺い知ることができます。

■ 年表 ■	
1592	指月屋敷【Ⅰ期】
1593	豊臣秀頼誕生
1594	指月城【Ⅱ期】
1596	慶長伏見地震により指月城倒壊
1597	伏見城築城（豊臣秀吉）【Ⅲ期】
1600	関ヶ原の戦いの前哨戦で焼失
1601	伏見城再建（徳川家康）【Ⅳ期】
1623	廃城



図1 『伏見御城郭並武家屋敷取之絵図』による調査区周辺



図2 大正元年正式図による調査区周辺

2. 調査地について

今回の調査地（図3）は、丘陵の南端付近に位置しており、南側が崖であることから、伏見城期も敷地の南端付近であったと考えられます。

木幡山に城が移って以降は大名屋敷地となり、『伏見御城郭並武家屋敷取之絵図』（図1・京都市所蔵）上では、初代唐津藩主「寺沢志摩守（寺沢広高）」の記載がある場所にあたります。伏見城廃城以降は、周辺の武家屋敷もその役目を終え、寛文十年（1670）の『山城国伏見街衢近郊図』（京都大学附属図書館所蔵）では建物などは確認できません。明治末年頃までは山林だったようで、大正元年（1912）の正式図（図2）では旧地形を推察することができます。

調査地の東側に所在する大光明寺陵は、幕末に改修されたことが慶応三年（1867）の『文久山陵図』から把握でき、大正十年（1921）頃にほぼ現在の形に整備されたようです。一方、大光明寺陵以西は、明治末年頃から終戦まで伏見に駐屯していた京都師団工兵第16大隊の作業場となっていました。戦後は畑地でしたが、1960年代前半に観月橋団地が建てられ、現在の風景が形成されます。

3. 今回の調査について（図4～6、写真1・2）

今回の調査では、3区において、1960年代の団地の2m近い盛土の下で、団地以前の旧地表面を確認しました。そして、その下層で伏見城に伴う造成土を確認しました。黄褐色の礫・瓦混じりの層と茶色の粘土質の層を交互に積んでいる様子が観察でき、造成の様相を知ることができます。調査区の南側では、土坑2基と溝状遺構を確認しました。土坑が方形になるとすれば、一辺が1m前後と推察されます。深さは約1.2mで、粘土質の土の上に礫がまとまって入っています。溝状遺構は、南北2.5m以上、幅・深さ約1.2mです。土坑と溝状遺構は、いずれも、自然堆積層である黄色の礫層まで掘り込んで成立しています。調査区の立地と遺構の位置から、これらの遺構は建物に関連する可能性があり、今後検証する必要があります。

4. まとめ

今回の調査では、伏見城築城時の造成の過程および建物に関連する可能性のある遺構を確認することができました。今後、伏見城下及び指月城を検討していく上で、貴重な成果になると考えています。

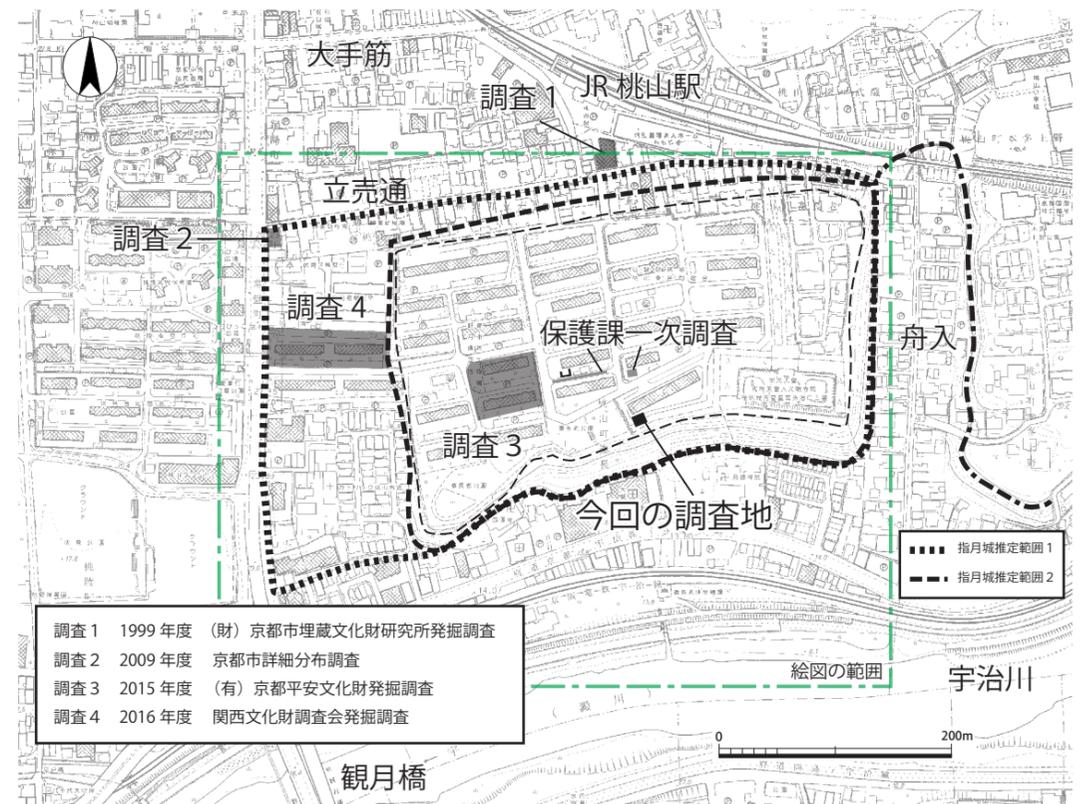


図3 今回の調査位置（1：6,000）

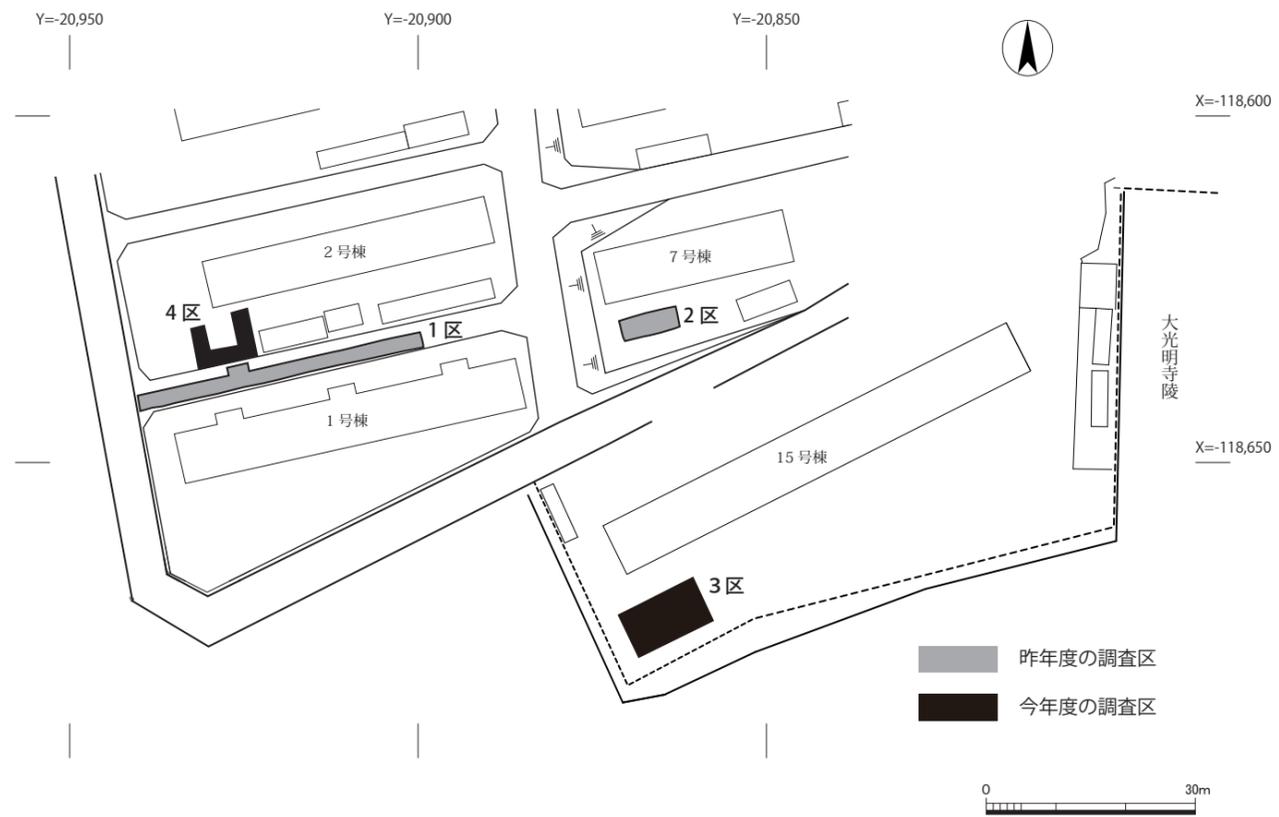


図4 調査区配置図 (1:1,000)

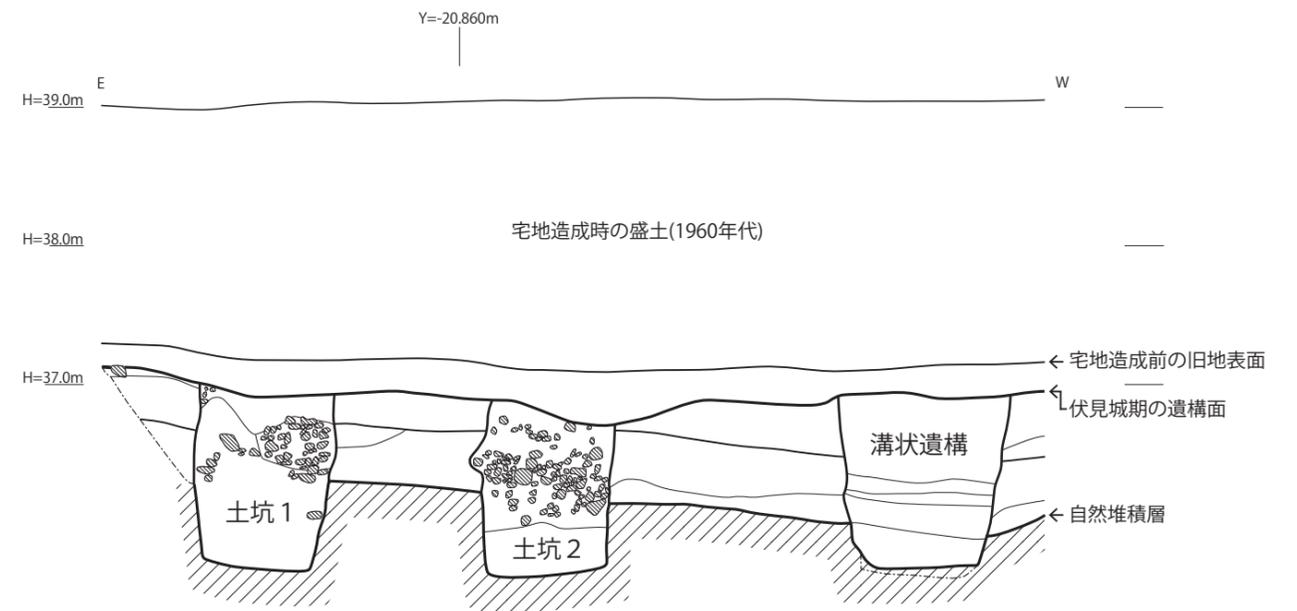


図6 3区南壁断面模式図 (1:50)

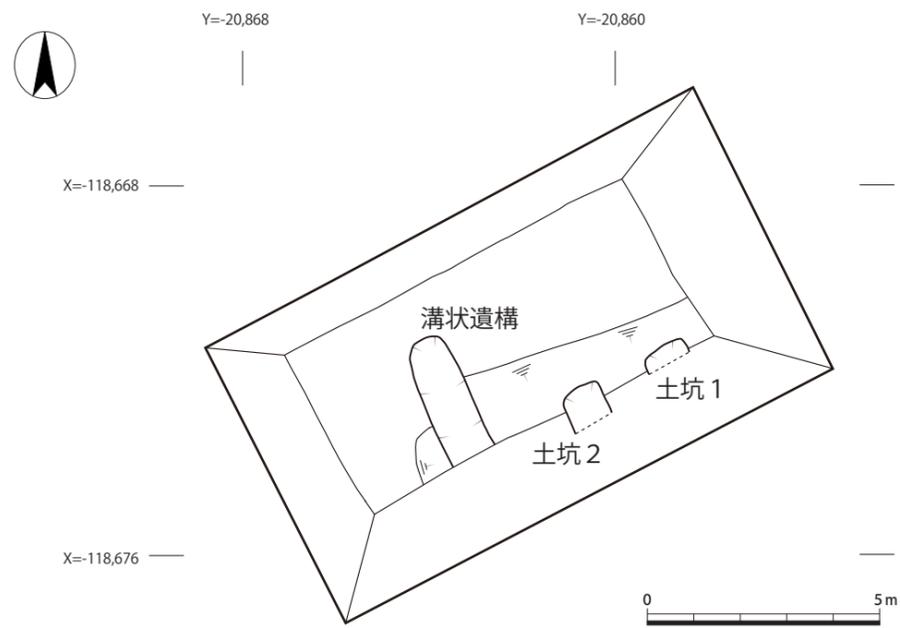


図5 3区遺構平面略図 (1:150)

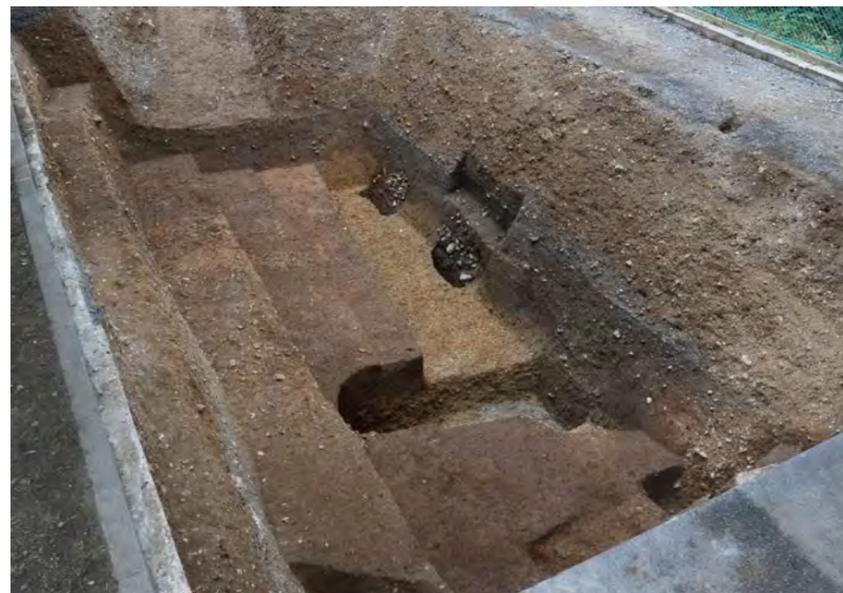


写真1 3区全景 (北西から)



写真2 3区南壁断面 (北東から)